第２分科会（小学校・創意ある教育課程）記録

提言テーマ「地域との連携・協働を図る教育課程の編成と運用」

～「社会に開かれた教育課程の実現」を目指して～

提言者［佐賀市立金流小学校　　副島　和久］
司会者［小城市立三日月小学校　西村　雪彦］
記録者［佐賀市立中川副小学校　熊本　万里子］

【研究協議題】
- 持続可能な地域との連携・協働の在り方について
- 地域資源を生かした教育課程の編成について

１　質疑応答

・進行の都合により、質疑応答はありませんでした。

２　グループ協議報告・まとめ

(1)　Aグループより

- コミュニティスクールの委員が不足し、運営面で職員に負担がある。
- 地域との行事が増え、関わりがやや強くなってきている。持続可能な連携･協働を進めていくためには、できることとできないことをきちんと伝え、理解を促していく必要がある。
- 働き方改革の改革も必要である。

(2)　Bグループより

- 地域とのつながりや活動が点になっている状態であるため、組織立てていきたい。
- PTA担当は教務、地域コミュニティは教頭と分担しているが、コミュニティ事務局に専任職員がいるので、学校の負担は少ない。ただ、活動の主体が学校なのか地域なのかはっきりしないところがあり整理が必要である。
- 学校運営協議会は、学校以外の視点で学校運営についてクリエイティブな発想など様々な意見を出していただきたいが、助言をもらえる場には至っていない。

(3)　Cグループより

- 地域の方の高齢化から、次の担い手をどのように繋いでいくかが課題である。
- 地域と学校のwinwinの関係作りが必要である。実際、感謝の会や発表会でお世話になった方にお礼伝える機会を設けたり、協力者の写真を掲示したりすることで満足感につなげることができている。
- 職員の経験値が変化しているため、教育課程にどのように組み込むことがいいのか難しさがある。また、固定化してしまうと探究的にならないという問題点もある。

(4)　Dグループより

- 持続可能な地域との連携を行っていくためには、地域共同推進委員や地域コーディネーターなどの存在が不可欠であり、コーディネーターが活動を引き継ぐ担い手となっている。
- 活動が点と点にならないよう教科横断的なカリキュラムの作成が必要である。
- カリキュラムを可視化することで、様々な活動を次年度に引き継ぐことができる。

(5)　まとめ

- キーワードとして双方向、地域とのつながり、目的明確化、地域の方の高齢化などがあげられ、これらのキーワードをいかに構造化して教育課程を構築していくかがこれからの課題である。